

# 主な技法解説

## ダゲレオタイプ Daguerreotype

最も早く公表された写真術。銀メッキされた銅板の上に画像を形成します。フランス人のダゲール（Louis Jacques Mandé Daguerre 1787-1851）が考案し、1839年1月に発表しました。この年が写真発明の年とされています。感光面をレンズ側から鑑賞するため左右逆となる画像は解像度が高く、美しく鮮明なもので、見る角度によってポジにもネガにも見えます。肖像写真に多く用いられ、大流行した写真術です。

## カロタイプ Calotype and Salted paper

最も早く公表されたネガ・ポジ方式の写真術。英国のタルボット（William Henry Fox Talbot 1800-77）が考案した、紙を支持体とした感光材料による撮影技法。ギリシャ語のカロス "美しい" から命名された方式で、タルボタイプとも呼ばれます。ネガ原板の紙の繊維により、ダゲレオタイプに比べると鮮明さを欠きますが、建造物や遺跡、風景などの記録だけでなく、肖像写真にも多用されました。また単一の原板から多数の印画が作れるという利点を持ちます。

## コロディオン湿板方式 Wet collodion process

1847年の卵白湿板方式に続いて公表されたガラス板を支持体とする実用的な撮影技法。一度の撮影で一枚しかできないダゲレオタイプと、紙の繊維のため鮮明さを欠くカロタイプ、それぞれの短所を改良すべく考案されました。

日本における実用的な意味での写真の技術は、この湿板写真から始まりました。鶴岡玉川や上野彦馬、下岡蓮杖らが開国後に来日した外国人から湿板写真を学び、文久年間（年頃）に最初の職業写真家として開業しました。

## アンブロタイプ Ambrotype

コロディオン湿板方式が発表されて間もなく、画像を薄く仕上げた湿板ガラスネガの背後に黒い布や紙を置いたり、裏に黒いニスを塗るなどして画像をポジ像に見せる技法が考案されました。この写真は、欧米ではダゲレオタイプの廉価版として普及し、ダゲレオタイプと同様なケースで装丁されました。日本では桐箱に入れて顧客に手渡され、「ガラス写し」あるいは「ガラス生撮写真」などと通称されました。

## ゼラチン乾板 Gelatin dry plate

ガラス板に薬品を塗り、濡れたまま撮影しなくてはならないコロディオン湿板方式に対し、乾いた状態で使用できるガラス支持体の感光材料を乾板（かんばん）と呼びます。これにより写真家は撮影の現場での暗室作業から開放され、感光板を自製する必要がなくなりました。

日本には 明治 16(1883)年頃に最初のスワン乾板が輸入されたといわれています。

## 鶏卵紙 Albumen paper

1850年に発表された、卵白を感光物質の媒体として使用する印画紙。幕末から明治時代中期にかけて、日本においても中心的に用いられた印画紙。印画紙をネガと密着して太陽光で焼き付けるだけで画像が生じる、焼出し紙です。コロディオン湿板方式が発表されると、このガラスネガと鶏卵紙の組み合わせが 19 世紀後半の約 30 年の間、標準的な写真術として普及しました。この一方で、湿度や光の影響による画像濃度の低下や卵白層の黄変は、19 世紀の鶏卵紙写真の特徴でもあります。

## ゼラチン・シルバー・プリント Gelatin silver print

鶏卵紙の後に広く使われた塩化銀ゼラチン乳剤による焼出し印画紙（Printing out paper, P.O.P.）もゼラチン・シルバー・プリントの一種ですが、銀ゼラチン乳剤を使用し、露光後に現像処理を行って画像を生じさせる近代的な印画紙（Developing out paper, D.O.P.）を指して用いられることが多いのが特徴です。日本での使用例は日露戦争頃から始まったと考えられています。

## 鶏卵紙に手彩色 Hand-colored albumen print

鶏卵紙による紙焼き写真に手で彩色を施したもの。明治期の日本の写真の特徴付ける、いわゆる横浜写真では、一見カラー写真に見まがうような繊細な色付けが画面全体に施されたものも多くあります。

横浜写真は、幕末から明治初年にかけて下岡蓮杖やベアトが創始し、明治 20 年代から 30 年代半ばにかけて全盛期を迎える外国人向けのお土産写真でした。名所旧跡や風俗などが対象として撮影され、鶏卵紙に焼き付けられた写真は、そのほとんどに手彩色が施されていました。日本画の絵師が雇われて彩色の作業をしたといわれ、膨大な数の写真が横浜を中心として生産されました。

## コロタイプ Collotype

写真印刷法の一つであるコロタイプの原型は、1855年に考案された写真石版法フォトリソグラフィー（Photolithographie）です。1870年にイギリスのオートタイプ社がこれをコロタイプとして発表しました。この印刷技法は写真の再現に優れており、発表後から急速に普及し、ウッドベリタイプなどの複製技術に置き換わっていきました。比較的少数数の写真印刷などに適しているところから、日本でも卒業アルバムなどの印刷に多用され 1960 年代まで広く使われました。

（展覧会図録より一部抜粋）